

寄 書

釜石市橋野高炉跡, ASM から HL 賞を受賞

吉 武 英 吉*

去る4月3日,釜石市マリンホテルにおいて, American Society for Metals (ASM) 会長 Dr. Donald J. Blickwede によつて, 米国 Ohio 州 Metals Park からはるばる持参された, 名誉あるブロンズの Historical Landmark 賞 (HL 賞) が, 浜川万治郎釜石市長に手渡された。

この名誉ある賞は 1857 年 12 月, 日本鉄鋼業の近代化の第一歩をふみ出した釜石市橋野高炉跡に対して授与されたものである。

HL 賞とは 1967 年に ASM によつて設定されたもので, 主に, 米州を対象として金属加工技術の進展に輝かしい貢献をした場所, 設備, ideas 及び人に対して与えられるものである。米国以外では過去に, Canada へ 3 カ所, Mexico へ 2 カ所授与されているのみである。今回, 橋野高炉跡が米州以外としては, 初めての名誉ある受賞となつたのである。

当賞の受賞については 1 月末に ASM 会長 Dr. D. J. Blickwede から, 当協会に対して, 今回は日本における鉄鋼業発祥の地に対して授与したい旨の申し入れがあり, これに対し協会でも, 種々検討を重ね, 2 月 22 日橋野高炉跡をその候補地として正式に推薦した。

この案に対して 3 月下旬, ASM の理事会が全員一致で承認した旨の連絡があつた。

Dr. D. J. Blickwede ご夫妻と ASM 専務理事の Mr. A. R. Putnam ご夫妻は, 4 月 1 日に開催された当協会の第 69 回通常総会へ出席の後, 翌 4 月 2 日新幹線で釜石に向かわれた。皆さんは車中から仙台平野の雪なお深い景色を賞でられ, 次いで北上駅から関係者のお迎えをうけて, 車で新日鉄釜石製鉄所のご好意で準備さ

れた宿舎の楽山荘に向かわれた。

当夜釜石製鉄所主催の歓迎夕食会が催され, 浅井新日鉄釜石製鉄所長, 両副所長はじめ関係の方々, また市からは浜川市長, 長谷川市議会議長他関係者 20 余名の心からのおもてなしを受け, 両夫妻は釜石の夕べを楽しまれた。

次いで 4 月 3 日は釜石製鉄所見学の後受賞式場に向かわれた。

受賞式には, 昨夜来お会いした浜田市長始め市役所関係の方々, 並びに浅井製鉄所長ほか製鉄所関係の方々が出席された。

まず日本鉄鋼協会から受賞に至るまでの経緯を説明し, 次いで Dr. Blickwede と Mr. Putnam による授与に移つた。

専務理事 Mr. Putnam から以下の HL 賞についての説明があつた。

『今回の HL 賞の受賞に対して, ASM 理事会及び 53 000 名にのぼる会員を代表してお祝の言葉を述べます。過去の HL 賞の受賞は, 金属加工技術における先駆者の功績を世にひろめることに貢献してきた。

HL 賞は 1972 年の西半球における最初の電気製鋼に成功した The Crucible Speciality Metals Div. of Colt Industries の第 1 回授賞にはじまり, 最近の 8 年間でも今日の授賞を含めて 37 を数える。また米州外での 2 番目の授賞を世界で初めての Iron 製 Bridge である英国の Ironbridge に対して来月初め行う予定になつている。

しかし今日はご当地橋野高炉跡への授賞ですから, ひとつ Dr. Blickwede から橋野高炉跡についての歴史的背景を説明していただくことにします。』

さらに, Dr. Blickwede から, 日本鉄鋼協会初代会長の言葉を引用して以下の説明が加えられた。

『1891 年に日本の冶金技師野呂景義博士は次のように述べています。すなわち“鉄鋼は日本国工業の母であり, また国家安全の基礎である。鉄鋼業なくしては日本の工業は存在しない, すなわち鉄工業は国の運命を決定するものである”。

この言葉が真実であるとすれば, ご当地での高炉操業の成功によつて, 日本における今日の工業化への芽生えが生まれたと考えられる。

江戸時代末期, 日本の製鉄技術は古典的な“たたら製鉄”と鉄からの鍛造によつていた。これらの方法は刀剣, 農機具, 工具, その他の道具の生産には十分でした。しかしこの“たたら製鉄”は日本の近代化のために必要な造船業や機械製作・修理のためには十分ではなかつた。

欧州では, 木炭高炉は 14 世紀の半ばにはすでに開発されており, 一方日本では 1857 年の当高炉の建設までにすでに 4~5 世紀後れていた。しかしそれが日本の工



ブロンズの Historical Landmark 賞。

* 日本鉄鋼協会



釜石市における HL 賞受賞式
(右より浅井所長, Putnam 夫妻, 釜石市長, Blickwede 夫妻, 筆者)



釜石市橋野高炉跡にて
(Dr. Blickwede 夫妻及び Mr. Putnam 夫妻)

業化への貴重な一步であつた。

そして、記念すべき当高炉の初出銑は 1857 年 12 月 1 日に行われた。釜石鉱山はそのための最適の地であり、露天堀による高品質鉱石の供給があり、また周りには奥深い森林がひかえていて木炭の十分な供給を果たした。エネルギーとしての水、耐火れんが用粘土、炉体用としての花崗岩も現地で潤沢に供給された。そして当地で生産された鉄によつて農機具、家庭用品、貨幣その他多くの需要がまかなわれた。

当地では合計 10 基の高炉があり、1868 年には年産約 3000 t の生産能力をもつといわれていた。

高炉操業は次第に隆盛に向かい国内的な規模における近代工業化への成長の基礎造りを果たした。』

次いで再び Mr. Putham に移り、

『今までのご説明でも明らかなようにご当地は ASM の HL 賞候補地としての資格に最適のものであります。では市長どうぞ賞をお受け下さい。

なおこの賞には次の言葉が記してあります。

HASHINO BLAST FURNACE RELICS HAS

BEEN DESIGNATED AN HISTORICAL LANDMARK BY AMERICAN SOCIETY FOR METALS.

THESE FIRST WESTERN-STYLE BLAST FURNACES IN JAPAN SUCCEEDED IN PRODUCING PIG IRON FROM IRON ORE IN 1857, THUS MARKING THE BIRTHPLACE OF THE MODERN JAPANESE STEEL INDUSTRY.

なお以上の言葉に ASM の理事、会員及び事務局員一同からの“おめでとう”の言葉をつけ加えておくりたいと思います』

次いで浜川釜石市長から心のこもつた謝意が述べられた。

このあと受賞祝賀会に移り、なごやかな歓談が交された。その間に浜川市長から ASM の Dr. Blickwede, Mr. Putnam に対して記念品の贈呈があり、また当市の有名な虎舞も参加の方々に興をそえた。

次いで受賞式場から橋野高炉跡に向かった。雪に囲まれた山道を車で昇ること約 1 時間で“青の木”に到着した。現地は 1 m を越す積雪の中に高炉跡までの道が 3 m 程の幅にきれいに除雪され準備されており、道路中央には赤絨毯が長々と敷かれていた。また道路わきには史跡保護グループの中高校女生徒が日米の小旗をもつて出迎えてくれた。

Dr. Blickwede 夫妻, Mr. Putnam 夫妻はこの温かい心のこもつた歓迎に喜びを顔一杯にたたえて進まれた。高炉跡に近い所で一人の女生徒がきれいな英語で歓迎の言葉を述べ、Dr. Blickwede が返礼の言葉を述べられた。何とも心暖まる一時であつた。

橋野高炉跡は写真にも見られるように花崗岩の高炉外壁がきれいに保存されていた。また現場の状況については、釜石文化財保護委員の板沢さんから詳細な説明がなされた。

この山深い橋野の地における昔日の高炉操業がいかに困難であつたかが想像され、従事された関係者の苦難を偲ぶと共に出銑成功の日の喜びの深さが身にしみて感じられた。まさに、Dr. Blickwede の言葉にもあつたとおり今日の日本鉄鋼業の隆盛の門出が当地にあつたことがしみじみと想起こされた。

高炉跡見学を終えた一行は、同行された森釜石市助役、大矢釜石製鉄所副所長にお礼を申しあげ、関係の方々の盛大な見送りの中を、思い出多かつた釜石市をあとにした。